
教育総合センター

だより

NO. 134

平成 26. 12. 1

今こそ「品格教育」

尼崎市立立花中学校

校長 福田美貴子



藤原正彦のミリオンセラー「国家の品格」は2006年に刊行され、「品格」は「イナバウアー」と共に、この年の流行語大賞に選ばれた。「イナバウアー」は子ども達の瞳を輝かせたが、「品格」という言葉に、人々は何を感じ取ったのだろう。マスコミで「横綱の品格」や「議員の品格」が問われ、それぞれ辞職に至ったことはそう古いことではない。

さて、今世紀に入って、アメリカの教育改革の成果が表れた要因の一つに「品格教育」があげられているが、日本では、広島大学大学院教育学研究科の青木多寿子先生が研究を進められている。

最近、ふと立ち寄った書店で青木多寿子編の「もう一つの教育－良い行為の習慣をつくる品格教育の提案」という書物が目にとまり購入した。この書物の中で青木先生は、「情報化社会は、新しいものを伝えるのには適していますが、時代が変わっても変わらない大切なもののことは伝えにくいのではないのでしょうか。」と言われている。ここで言う「大切なもの」とは、言わずもがなであるが、「人間として大切なもの」を指している。

品格教育とは、「子ども達が良い行為とはどのようなものかを知り、良い行為をとれるようになることを望み、良い行為を実際に行うことで、子ども達が自分自身の生活を良い方

に導くように援助していく教育である」と、述べられている。

学校では、まず型から教える。多くの学校で行っていることであるが、本校では、互いの時間を大切にすることや5分前行動、脱いだ履物はきちんと揃えて下足箱に入れること、掃除は隅々まで丁寧に行うこと、挨拶は立ち止まって相手の目を見て行うこと、丁寧な言葉を遣うことなど「時を守り・場を清め・礼を正す」という三つの良い行為を生活三原則として学校全体で取り組んでいる。このことはここ数年間の継続した取組で習慣化され、授業規律や落ち着いて学習できる環境が整い、個々の生徒の能力の伸張に寄与していると言える。

また、「強く・正しく・優しく」という学校教育目標に沿った指導は生徒育成の要になっている。学校教育目標や生活三原則は「根気・忍耐・公正・正義・勤勉・礼節・寛容・思いやり・協力」など品格教育のキーワード或いはスタンダードとして取り組まれている事柄と一致する。

良い行為の習慣化を目指すことは、広い意味での学力形成の基盤であると考えている。標題では「もう一つの教育」と言っているが、私は品格教育こそ人間教育として「第一の教育」であると言いたい。

☆☆☆ 『男女共同参画初心者マーク』 ☆☆☆

今年の夏、1か月間、滋賀大学にて社会教育主事講習を受講する機会をいただきました。朝から夕方まで社会教育に関わる様々な講義を受け、その中には3泊4日の宿泊研修も含まれ、とても充実したものとなりました。

宿泊研修では男女共同参画をテーマとしたグループに所属し、現状や課題、それをどのように地域や家庭に啓発するかを調査・研究しました。もともと、男女共同参画に関する知識は皆無に等しい状況であり、他府県から受講している受講生との共同研究や講師先生からの講義は大変勉強になりました。

その中で、講師先生のエピソードがとても印象深く、自分自身の男女共同参画に対する考え方を見つめなおすきっかけとなったので紹介したいと思います。

先生は、ご夫婦でお勤めをされており、帰宅は先生の方が遅いことが常であったそうです。ところがある日、奥様の職場の仕事が立て込み、先生の帰宅が奥様より早くなったことがあったそうです。先生が家に帰ってくつろいでいると、奥様はあわてて帰宅された様子で、玄関に入るなり「遅くなってごめんね。お腹すいたんじゃない。」とって先生への気遣いの言葉を発せられたそうです。先生は、自身の帰宅が遅くなっても、決してこうした言葉を発したことはないことに気づき、はっとされたそうです。

このエピソードは、そのまま私にもあてはまりました。妻の家庭での役割を当たり前のもので、そのことに甘えていた自分自身を反省しました。私の育った家庭は、共働きで、そうした環境に慣れているにも関わらず、妻に対しては家庭での役割を果たしてくれることを望んでいたのです。

3年前、妻の検査入院が長引き、3週間ほど家を空け、その間、私と息子だけで過ごしたことがありました。私は、妙な責任感から、なるべく両親の世話にならず、息子の面倒や家庭での役割をすべてこなしてやろうとやっきになりました。朝は、食事の用意、洗濯、自分の弁当作り、夜は食事の用意や掃除、息子の勉強の面倒など、自分自身の時間は全くない状況で疲れ果てて、寝床に潜り込むといった毎日が続きました。

幸いにも、妻が健康面に全く問題なく戻ってきたことと、疲れ果てた自分が今の状況から解放されることに、ほっとしたことを覚えています。

こうした経験から、働きながら家庭の役割を果たすことがどんなに大変かということは十分理解できます。だからこそ、講師先生のエピソードから、妻の家庭での役割に甘えている自分に気づかされたのです。そして、自分の中に「男は仕事」「女は家庭」といった潜在意識があったことにも気づかされたのです。

宮崎駿監督の『もののけ姫』では主人公アシタカが、村の人々に『女性が元気で活躍できる村は、いい村だ』と語る場面がありました。私自身、学級経営において女子が元気で活躍できるクラスは、いいクラスである印象があります。

国が定める男女共同参画社会基本法では、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会実現への理念を掲げています。理念から見ればほんの小さな取り組みですが、私は、妻が安心して外で働くことができるように、弁当作りなど自分が家でできることをこれからも続けていきたいと思っています。

(人権教育担当係長 平岩 健太郎)

◇◇◇教育の情報化研究部会に参加して◇◇◇

私は、教育の情報化研究部会の一員として、3年目となります。

今年度、教育の情報化研究部会の研究員は4名おり、小学校2名、中学校2名の教員で構成されています。研究部会は、小学校と中学校の現場での交流ができ、新たな発見や考えが生み出される大変よい機会となっています。

私たち情報担当には、大きく分けて「情報教育の推進」と「校務の情報化の推進」という二つの役割があります。この研究部会では主に「校務の情報化」というものを研究し、教職員対象の情報活用能力向上に係る研修や校務支援ソフト「スズキ校務」の操作・活用に係る校内研修の作成・実施を行うことを目的としています。

研究の目的

「校務の情報化」を研究する目的は大きく3つあります。

1つ目は、「業務改善」というものが挙げられます。私たち教員には、授業以外にも様々な書類の作成や報告という業務があります。それらの書類を電子化したり、ネットワークで共有することができれば、業務の負担は軽減するものと考えています。

2つ目は、「子どもへの指導の充実」というものです。これは1つ目にも関連しますが、書類作成等にかかる時間を短縮することで、授業準備や子どもと向き合う時間を多く確保するという目的があります。私の勤務する学校では、学習につまずきのある子どもなどに対して放課後学習を行っています。『今日学んだことは今日理解して帰る』ということをもットーにしているため、業務改善によって生み出すことのできる時間は大変貴重なものと

なっています。しかし、研究部会での情報交換などを通じて、中学校では書類作成以外にも、クラブの指導や生徒指導などもあって子どもとの時間が持ちにくいというのが現状ということも教わりました。校務の情報化による業務改善が急務であるということを実感させられました。

3つ目は、「職員の情報活用能力向上における、セキュリティ意識の向上」というものが挙げられます。現在、尼崎市では、全ての学校で教員に一人一台の校務用PCの導入が図られています。一人一台のPCの必要性は前述した校務の情報化を推進する上で不可欠なことです。それに伴ってPCを活用する能力や管理する意識や能力というものが必要になってきます。研究部会で研究し、作成する校内研修モデルカリキュラムは、各学校の教員の情報活用能力を把握し、それにできる限り対応する内容で作成し実施しています。簡単な操作から、校務支援ソフトのより具体的な活用法を演習などを通して研修することで、さらに校務の情報化を推進する手がかりにしたいと思います。

研究部会を通じて目指すもの

近年、子どもたちを取り巻く「情報（IT）」という環境は、飛躍的に進化しています。その時代を生きる子どもたちに『正しく情報と関わる方法』を伝えることが私たち教員に課せられた使命の一つです。さらに学校の情報担当は、その先頭を歩いているという責任をもたなくてはならないと、私は考えています。そのことを踏まえ、研究部会でしっかり学び、自身の実践を積み重ね、研鑽を深めていきたいと考えています。

(水堂小学校教諭 有馬 陽一)

教育情報コーナーより

来年は、「阪神・淡路大震災」から20年、「東日本大震災」から4年となります。記憶の風化は止めようありませんが、今こそ《記憶し、伝えるべきこと》をそれぞれに考えてみましょう。情報コーナーから「東日本大震災」・「防災」に関連した本を紹介します。ぜひお気軽にお立ち寄りください。

- 『みんなを守るいのちの授業～大つなみと釜石の子どもたち』 片田敏孝他編/NHK出版
『3.11が教えてくれた防災の本①地震』 片田敏孝他編/かもがわ出版
『3.11が教えてくれた防災の本②つなみ』 片田敏孝他編/かもがわ出版
『つなみ～被災地のこども80人の作文集』 文藝春秋8月臨時増刊号
『これからを生きる君たちへ～校長先生たちからの心揺さぶるメッセージ』 新潮ムック編/新潮社
『東日本対震災～報道写真全記録 2011.3.11～4.11』 朝日新聞社編/朝日新聞出版
『Q&A学校災害対応ハンドブック』 学校災害対応ハンドブック編集委員会編/教育開発研究所
『見てわかる・学校の危機管理マニュアル』 高階玲治編/東洋館出版

視聴覚教材を活用してください

視聴覚センターは、防災教育関連の教材を多数所蔵していますが、今回は、「地震に備えるための教材」をご紹介します。

- 『大地震が学校をおそった』(H03 購入) 16mmフィルム
大地震が学校を襲ったときにはどうすべきかを問題提起する。実験施設で再現し被害がどのようにしておきるのかを見つめる。
- 『あっ地震だ！おちついて、あわてない！』(H12 購入) ビデオ
「119ちゃん」といっしょに地震が起こったときの正しい避難方法や知識、心構えを学ぼう。<防災アニメ>
- 『検証 脆弱列島日本 阪神淡路大震災の教訓』(H12 購入) ビデオ
阪神淡路大震災時の深刻な水不足にスポットをあて、いざという時の大都市の水確保の難しさ、現代社会の脆さを浮き彫りにする。
- 『東京消失』(H07 購入) ビデオ
巨大地震！今備えは、関東大震災の記録。未公開の写真でつづる衝撃のドキュメント。
- 『これだけは守りたい 家庭の地震対策』(H09 購入) ビデオ
家庭で地震を感じた時、最適な行動がとれるよう日頃からの十分な準備と訓練の大切さを描く。
- 『大地震発生』(H19 購入) ビデオ
地震被災者の体験談から教訓を学び、自分たちの街を自分たちで守る。